

事務事業評価における総括

部 局 名	福祉部	記入責任者	熊澤 克彦
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>平成 28 年度に保健福祉部の業務計画に位置づけ、平成 29 年度に福祉部に引き継がれた事業では、45 事業のうち、指標を達成し成果が上がっている 35 事業（77.78%）でS評価とし、概ね順調に進捗しています。</p> <p>このうち、事業の指標は達成できなかったが、成果はあがったものとしてA評価としたものが 7 事業、事業の指標を概ね達成し、成果は今後見込めるものとしてB評価としたものが 2 事業、事業の指標は達成できなかったが、成果は今後見込めるものとしてC評価としたものが、1 事業となっており、いずれの事業も政策・施策目標の達成に向けて、着実に推進していることから、今度も事業評価を行いながら、課題を見据え、各事業を実施していきます。</p> <p>【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】</p> <p>B評価とした事業は、「災害時における要配慮者及び避難行動要支援者支援事業（高齢者）」及び「同事業（障害者）」の 2 事業であり、28 年度中の避難行動要支援者支援計画（全体計画）の策定を目指してきましたが、関係団体等への説明会の実施や合意形成に時間を要したため、結果的に 29 年 4 月の策定となりました。現在、平常時における地域への情報提供について、名簿登載者に対する同意確認を行っています。今後、同意を得られた要支援者に関する名簿情報を避難支援等関係者に提供する予定であり、現時点では成果が得られる途上であると認識しています。</p> <p>また、C評価とした「地域ケア会議運営事業」については、指標に掲げた会議の開催数が目標値に届きませんでした。今後、成果が見込まれると考えています。</p>			
今後の方向性			
<p>【政策・施策目標の達成に向けた各事業の今後の方向性について】</p> <p>順調に進捗している事業については、継続して進めていきますが、引き続き、政策・施策目標の達成に向けて、より効率的かつ効果的に取り組みを進めていく必要があります。</p> <p>少子高齢化の進展や社会が複雑多様化する中で、厳しい財政状況にあっても市民ニーズに的確に対応していく必要があります。扶助費が今後も一定の割合で増加する傾向に変化はない中で、将来にわたって安定的な行政サービスを提供していくためには、これまで続けてきた補助制度等についても、聖域を設けることなく、その必要性や金額等の内容を精査し、見直しを進めていく必要があります。</p> <p>そのため、時代に即した行政経営の基本方針（C3 成長加速化方針）を踏まえ、持続可能な体制に向けた各種制度の見直しや外郭団体への支援策等に関する見直し、時代に即した行政経営を行うための働き方の見直しに取り組めます。</p>			